

2026 年度

学校推薦型選抜

長野県立大学

グローバルマネジメント学部

グローバルマネジメント学科

小論文

(90 分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は 12 ページあります。解答用紙は 3 枚、下書き用紙は 1 枚あります。
- 3 試験開始の合図後、まず、問題冊子、解答用紙の落丁、乱丁、印刷不鮮明等がないか確認し、気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験開始後、受験番号、氏名を解答用紙の所定欄（解答用紙 1 枚につき、受験番号 2 箇所、氏名 1 箇所）に記入してください。
- 5 試験開始後は、原則として、試験が終了し退出許可が出るまで退出できません。
- 6 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入してください。
解答用紙にアルファベット、算用数字を記入する場合、1 マスに 2 文字ずつ入れてください。（ただし、字数が奇数の場合は、末尾の 1 文字は 1 マスに入れてください。）
- 7 解答用紙は持ち帰らないでください。
- 8 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ってください。

問題 次の資料 1～4 を読んで、問 1～問 4 に答えなさい。

【資料 1】

国際比較が求められる背景には、そもそもほとんどの日本人が、エッセンシャルワーカー^(注1)の低処遇化を当然のことのように受け止めており、それが日本全体にどれほどマイナスをもたらしてきたかを十分意識していないように見える状況がある。

しかし、エッセンシャルワーカーの処遇悪化がこの三〇年間で進んだことは、日本の社会経済の基盤、ファンダメンタルズの長期的な弱化をもたらし、日本の世界的な地位低下をもたらす要因の一つとなっている。日常構造と化してしまったこの「常識」をいかに変革し、逆転させていけるかは、働き手の生活や人生にとって決定的であるだけでなく、日本社会の未来にとっての喫緊の重要課題となっている。国際比較はこのことに気づく契機となる。

例えば、先進国の中で唯一、日本だけが長期的に、低賃金社会に停滞し続けていることはこれを象徴する指標である。OECDによると一九九七年～二〇一七年の働き手一人の一時間あたり収入は、主要国の中で日本でだけ、九パーセント下落している。アメリカでは七六パーセント上昇し、ドイツでも五五パーセント上がり、韓国では二・五倍に増えていた時期に、である。

このことはエッセンシャルワーカーの低処遇が拡大・定着したと無関係ではない。競争力を上げるために必要だとして、給与を低く抑え続け、低賃金の非正規を増やし、安く外部に請け負わせる仕組みを拡大したことで、日本は先進国の中でただ一国だけ、働く人の収入が低迷し続けた。非正規や委託を通じた低賃金・不安定収入の恒常化が、低賃金社会日本を構造的に作り出したのである。

しかし、では低賃金にしたおかげで競争力が本当にあがったのかと言えば、全くそうではなかった。

国際経営開発研究所（IMD）の「世界競争力ランキング」によれば、二〇二三年、世界六四カ国中、日本の世界競争力は三五位と過去最低を更新した。これはタイ、インドネシア、マレーシアよりも低い。一九八九年の第一回ランキングでは、日本は世界一位だった。しかしその後の三〇年余でここまで順位を落としたのである。

とりわけ「ビジネスの効率性」の項目で、日本は四七位へと凋落した。この順位の低落は、安い労働力を安易に利用することでビジネスをする仕組みを広げ、自らの効率性を磨くことに真剣に向き合っていなかった日本経済を象徴している。人を安く使えばいいという考え方は、日本経済の競争力を上げるのではなく、むしろ低下させてきたのである。

出典：田中洋子 2023「知られていないエッセンシャルワーカーの働き方」田中洋子編著『エッセンシャルワーカー 社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』旬報社、22－23 頁

【資料 2】

私たちの生活する社会は資本主義社会である。そしてこれまで、資本主義社会には一般に四つの階級が存在するとされてきた。両極に位置するのは、企業の経営者からなる階級である資本家階級と、現場で働く人々からなる労働者階級である。

しかしそのほかに、二つの中間階級が存在する。ひとつは企業とは別に、独立自営の農業や商工サービス業などを営む人々、もうひとつは企業で働く専門職・管理職・事務職などの人々である。

前者の人々は、事業を営む経営者としての側面と現場で働く労働者としての側面を兼ね備えている。その意味で中間階級なのだが、資本主義が発達する以前から存在していた古い階級なので、旧中間階級と呼ばれる。これに対して後者は、企業において資本家階級と労働者階級の中間に位置するという意味で中間階級なのだが、企業規模の拡大にともなって新しく生まれてきた階級なので、新中間階級と呼ばれる。

労働者階級はこれまで、まとまったひとつの階級で、資本家階級と並ぶ資本主義社会の二大階級のひとつだとされてきた。ある程度以上の年齢の人なら、かつて日本社会党や日本共産党が、みずからを労働者階級の代表だと主張してきたことをご存じだろう。そこで想定されていたのは、ひとつのまとまった、一枚岩の労働者階級だった。

ところが今日では雇用形態の違いによって、その内部に大きな格差が生まれ、事実上は、二つの階級に分裂してしまっている。上位に位置するのが正規雇用の労働者階級、下位に位置するのが非正規雇用のアンダークラスである。このように労働者階級は二つに分裂し、事実上は別の階級になってしまった。これが、「新しい階級社会」である。

出典：橋本健二 2025『新しい階級社会 最新データが明かす〈格差拡大の果て〉』講談社現代新書、27－29 頁

【資料 3】

グローバル化が先進国の階級構造にもたらす最大の変化は、分極化である。フォーディズム^(注2)段階の特徴は、技術水準と賃金水準が中間レベルの製造業が、先進国内部に分厚く集積していたことである。しかしグローバル化が進行すると、先進国の製造業は競争力を失

って衰退し、あるいは安い労働力を求めて中枢部分を先進国に残しながら海外に移転していく。そして、産業の中心は、金融業と情報サービス業に移行する。

このため先進国の職業構造は、高度な技能や判断力を必要とする高賃金のものと、低賃金の単純労働とに分極化することになる。一方では、先端技術を駆使したり専門的サービスを提供したりする産業に従事する専門技術職が増大する。他方では、これらの人々の仕事と生活を支える清掃人、店員やレジ係、ウェーター、建設作業員など、労働集約的な産業で単純労働に従事する労働者が増加する。こうして格差は拡大していくのである。

生産諸要素はグローバルに流動するだけでなく、一国経済のなかでも流動性を増していく。とくに労働力の流動性が増したことが重要である。サービス経済化という産業構造の変化と、新自由主義^(注3)の浸透により、資本は労働者の生活や権利などはおかまいなしに、サービスの種類や需要の変化に応じて、労働力をフレキシブルに活用しようとするから、雇用は不安定化する。この労働力のフレキシブルな部分を主に担うのが、アンダークラスである。

さらにフレキシ=グローバル段階の資本主義社会では、新自由主義の浸透によって、国家が経済において果たす役割が縮小していく。国家はこれまで、衰退産業、そして、零細企業や自営業を、ある程度まで保護していた。これらが急速に衰退して、失業者が急増するようなことは避けなければならなかったし、これらが保守政党の支持基盤だったこともその一因だった。ある時期まで農協が、自民党の強固な支持基盤だったことを思い出していただきたい。しかし新自由主義は、このような保護を嫌う。こうして市場における競争は規制から解放され、旧中間階級の分解が進行することになった。

このようにフレキシ=グローバル段階では、全般的な格差拡大、アンダークラスの出現と拡大、そして、旧中間階級の分解が進行するのである。

格差拡大については、次の変化も付け加えておきたい。

二十一世紀に入ってから、製造業に代わってリーディング・インダストリーの中心を占めるに至った金融業やIT産業を中心に、きわめて高い報酬を受け取る経営者や新中間階級が増加するようになった。

もともと資本家階級である経営者の受け取る報酬は、労働力の再生産費ではなく利潤の配分だから、利潤の範囲内であれば、とくに上限のようなものはない。それでも高度経済成長期までの日本の大企業では、経営者の受け取る報酬は新中間階級や労働者階級のせいぜい数倍から十数倍にとどまっていた。しかし近年では、数十倍から百数十倍もの報酬を受け取る経営者が増えている。また、新中間階級のなかにも、企業の得た利潤の配分を受けて、高額の報酬を得る人々が増えている。つまり新中間階級のなかに、労働者階級を搾取する側

に立つ人々が増えたのである。

つまり、資本家階級は、以前にも増して労働者階級を搾取するようになった。そして、新中間階級にも、労働者を搾取する側に立つ人々が増えた。そうすると当然、労働者階級の取り分を減らさなければならない。アンダークラスは、このために利用されているのである。見方を変えれば、アンダークラスが増加することによって、正規労働者階級の賃金の低下が抑えられているということもできる。だとすれば、正規労働者階級とアンダークラスの利害は対立することになる。

出典：橋本健二 2025『新しい階級社会 最新データが明かす〈格差拡大の果て〉』講談社現代新書、84－87 頁

【資料4】

アンダークラスの出現、そして拡大は、社会に何をもたらすだろうか。ひとことでいえば、社会の持続可能性が大きく低下する。あえていえば、社会は存続不可能なものとなる。正規労働者階級は搾取される階級であるとはいえ、その賃金には子どもを産み育てて次世代の労働力を再生産する費用が含まれている。しかしアンダークラスの賃金には、次世代の労働力を再生産するための費用が含まれていない。だからアンダークラスは子孫を残さない。再生産不可能な階級、それがアンダークラスである。

それでは再生産不可能なアンダークラスは、新たな担い手を得ることができずに縮小していくのか。そんなことはない。フレキシ＝グローバル資本主義がいまあるようなものである限り、アンダークラスは必要とされ続ける。だから、他の階級の人々が生み育てた子どもたちが、アンダークラスに転落する。しかしアンダークラスは家族を形成せず、子どもを産み育てない。だから他の階級の人々の一部には、孫が生まれない。

出典：橋本健二 2025『新しい階級社会 最新データが明かす〈格差拡大の果て〉』講談社現代新書、88－89 頁

(注1)「社会機能維持者」として、医療、高齢者・障がい者支援、飲食料品・生活必需物資の供給、小売、生活サービス、ゴミ処理、メディア、金融、物流・運送、行政、育児関連で働く人々など（田中洋子 2023「知られていないエッセンシャルワーカーの働き方」田中洋子編著『エッセンシャルワーカー 社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』旬報社、8 頁）。

(注2) フォードが自動車の大量生産に適用したベルト・コンベア・システムを中心とする管理方式。大量生産・大量消費を基礎とする社会形態と生活様式を生み出した(濱嶋朗・竹内郁郎・石川晃弘編 1997『社会学小辞典〔新版〕』、529頁)。

(注3) 新自由主義とは何よりも、強力な私的所有権、自由市場、自由貿易を特徴とする制度的枠組みの範囲内で個々人の企業活動の自由とその能力とが無制約に発揮されることによって人類の富と福利が最も増大する、と主張する政治経済的実践の理論である(デヴィッド・ハーヴェイ(渡辺治監訳) 2007『新自由主義 その歴史的展開と現在』作品社、10頁)。

問1 エssenシャルワーカーの処遇悪化、低賃金の非正規雇用労働者の増加が、この30年間で進んだことは、日本社会をどのように変化させたか。資料1を読んで、300文字以内で説明しなさい。

問2 「新しい階級社会」は5つの階級によって構成されるが、それは何か。資料2を読んで、5つの階級を書きなさい。

問3 「新しい階級社会」が誕生したプロセスを、資料3を読んで、350文字以内で説明しなさい。

問4 資料4を読んで、少子化・人口減少問題の原因について説明し、その原因を解決するために政府はどのような政策を実行すべきか、あなたの考えを600文字以内で述べなさい。

